

ハイライト:

3師会と保健所が世話人に
講演会開催決定
地域のNSTの実現に向けて

目次:

第一回研修会	2
栄養部会のご紹介	2
地域連携パス部会開催	2
第二回研修会	3
AHNとリビングウィルの勉強会	3
カシオペア健康ラジオ講座	3
編集後記	4

3師会と保健所も世話人に 定例総会開催

4月26日午後6時よりカシオペア地域医療福祉連携研究会の定例総会を開催しました。医師、看護師、ケアマネ、栄養士、調理師、施設相談員、事務職員など129名が参加しました。

基調講演には県立中部病院緩和医療科長の星野彰先生をお招きし、「がんという病気と緩和ケア～がんになっても安心して暮らせる町をめざして～」と題し、がんという病気と緩和ケアの基礎的な知識から、中部病院のある北上市の緩和ケアの取り組みをわかりやすく紹介していただきました。（詳細はP2へ）

定例総会では事務局より昨年度の活動報告と今年度の活動計画を説明しました。活動計画では大腿骨連携パスの症例検討会を開催すること、脳卒中連携パスの作成着手すること、NST連携パスの検討、多職種に活動の浸透を図るためニュースレターの発刊をすることを今年度の新規活動として提案、昨年度からの継続活動として、年3回の研修会の実施、講演会の実施、窓口情報の更新等を行なっていくことを提案し、承認されました。

代表世話人と世話人は変更せず、新たに医師会、歯科医師会、薬剤師会、保健所を世話人として加えることになり、参加機関の拡充による活動の広がりが期待されます。



医師、ケアマネなど129名が参加

定例総会後の懇親会には45名が参加しました。今後の活動、講演会、連携パスなどについての話題で会場は大いに盛り上がり、「顔の見える連携」をさらに深めていく有意義な時間となりました。

速報！講演会開催内容決定

「高齢者に対するAHNとリビングウィルの勉強会」の一環として研究会主催の講演会を開催します。講師は「高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン～人工的水分栄養補給の導入を中心として～」の作成に携わった東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター上廣死生学・応用倫理講座特任教授の会田薫子先生をお招きします。

日時は11月30日（金）18時30分か

ら。場所は二戸パークホテルを予定しています。

人工栄養やリビングウィルについて地域全体で学び、考える絶好の機会になると思いますので、皆様お誘いあわせの上、多数のご出席をお願いいたします。

「訪問看護ステーションの
スタッフやケアマネが病院
内にどんどんやってくる」



がんで治療がなくなった時に過ごしたい場所は？
の問いに多くの参加者が自宅を選択

がんになっても安心して暮らせる町をめざして 第一回研修会

第一回研修会を定例総会と同時に開催しました。

県立中部病院緩和医療科長の星野彰先生を講師にお招きし、「がんという病気と緩和ケア～がんになっても安心して暮らせる町をめざして～」と題し、がんという病気と緩和ケアの基礎的な知識から、中部病院のある北上市の緩和ケアの取り組みをわかりやすく紹介していただきました。

北上市は在宅緩和ケアに対する訪問診療を行う診療所が増加しているし、24時間対応可能な訪問看護ステーションが市内に6ヶ所あるそうです。また、訪問看護ステーション

のスタッフやケアマネが病院内にどんどんやってくるという状況にあります。さらには市民団体が活発に活動し、平成15年には県が病院の1フロアを緩和ケア病棟にする方向を検討していた際に、緩和ケアの充実を求める署名運動があり、独立型緩和ケア病棟の建設に至ったそうです。このような医療、介護、行政、市民という地域の力と地域の連携を大事にして「がんになっても安心して暮らせる町」を目指していきたいとのことでした。

地域の栄養サポートチームを 栄養部会紹介

栄養部会は昨年度、「顔の見える関係作り」をテーマに取り組んできました。主な活動としては、食形態の連携名刺の作成、病態の勉強会を開催してきました。定例会のあとには懇親会もあり、本当の意味での顔の見える関係作りができていないのではないかと感じています。

将来的には地域におけるNST（栄養サポートチーム）活動を展開し、病院・施設・在宅どの場所でも、栄養ケアができるように

なれば、と考えています。また、勉強会には栄養士だけでなく、ケアマネージャーや看護師等も参加していただくこともあり、今後は職域を超えたネットワークの構築をしていきたいと夢を膨らませています。

9月24日（月）には「経腸栄養剤について」の勉強会を開催します。11月28日（水）には「在宅介護（ヘルパー）向け嚥下食の作り方」の実習を開催予定です。（栄養部会長 蛇口）



地域連携クリニカルパス部会開催

10月22日（月）18時30分より、二戸病院地階会議室にて平成24年度第1回地域連携クリニカルパス部会の開催を予定しています。

主な内容は、大腿骨近位部骨折地域連携クリニカルパスについてを予定しています。

大腿骨近位部骨折地域連携クリニカルパスは、今年の3月に策定した急性期・回復期・維持期の3期にわたって、各施設等で治療や介護を行っていくパスで、3月の開始から通算で36件実施されています。このうち、バリエーションが9件発生しており、維持期まで

至っているのは自宅退院を含めて、16件となっています（8月31日現在）。

今年度第1回目の部会では、このパスを実施してみて、今までより良くなった点や、何か変わった点はあったのか、よりよいパスとしていくにはどのようにしていけばいいのかなどについて意見交換をしていきたいと考えています。（連携パス部会 小沢）

「実践！よくわかる在宅排泄ケア」第二回研修会

7月4日に平成24年度第2回カシオペア地域医療福祉連携研究会研修会を開催しました。「実践！よくわかる在宅排泄ケア」と題し、二戸病院の皮膚・排泄ケア認定看護師林下さんと花王カスタマーマーケティング株式会社の菊池さんを講師に迎えて、講演と実技の2部構成で行いました。

180名という多くの参加がありました。参加者の所属機関の内訳は訪問介護や通所介護、入所施設等の介護保険事業者からは99名、病院職員68名、訪問看護ステーション6名、その他7名でした。

これまでの研修会はケアマネージャーの参

加が多かったのですが、今回は介護職員や看護師の参加が多いことが特徴的でした。

講演と実技を通して、高齢者の肌の特徴やスキンケアの方法、おむつの正しい使用方法などを体験しながら学ぶことができました。会場からは「そうなんだあ」といった感嘆の声が聞かれ、地域の介護職や看護職の知識共有、技術向上の機会となりました。

アンケートでは継続開催を望む言葉や実践に即した内容の研修会を希望する声もあり、今後も実践的な内容の研修会を企画していくことが期待されています。



オムツの正しい使い方を実技で学ぶ

高齢者に対するAHNとリビングウィルの勉強会

二戸病院高橋浩副院長が中心となり『高齢者に対する、AHNとリビングウィルの勉強会』をシリーズで開催しています。AHNはartificial hydration and nutrition略で人工的水分・栄養補給法を意味します。

日常診療でも自ら食事摂取が困難となった方に対する点滴、経管栄養、胃瘻などはAHNに含まれ、身近な医療行為となっています。最近、高齢者や認知症患者などの方に対する、AHNの適応が問題となっていて、本人・家族のAHNの意思決定を支援する目的でガイドラ

インやツールが発表されました。今回、このガイドラインの理解を深めるために、来年の3月までの予定で勉強会を開催します。内容はAHNに関連するミニレクチャー、AHNのガイドライン解説、事例検討の構成です。

第1回を7月26日に開催し、二戸病院の山桑言語聴覚士より「経口摂取と嚥下」の講演をいただきました。第2回は9月20日、内容は二戸病院の佐々木管理栄養士より「経腸栄養について」の講演とガイドライン解説などです。第3回は11月22日です。

みんなで守ろう地域医療 カシオペア健康ラジオ講座3

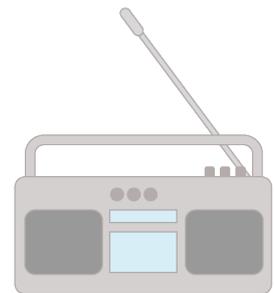
二戸地区の地域医療の現状と健康課題について、住民の方々とともに考えるカシオペア健康ラジオ講座の新シリーズが始まりました。

今回は、診療所のかかりつけ医と県立病院の専門医との連携で治療を受ける上手な医療機関の使い方、こどもの感染症、こころの健康、認知症への対応など、いつまでも、地域で元気に暮らすための耳よりな情報が満載です。

9月3日から毎週月曜日、お昼0時30分よりカシオペアFM(77.9MHz)で放送。再放送は火曜日朝7時30分～と日曜日夕方4時30分～です。番組パーソナリティは、大久保ひとみさんです。

11月19日には当研究会事務局が出演し、カシオペア地域医療福祉連携研究会の活動についてお話しする予定です。ぜひお聞きください。

詳しくは二戸保健所ホームページまで。





カシオペア地域医療福祉連携研究会

事務局

住所 岩手県二戸市堀野字大河原毛38-2
岩手県立二戸病院 地域医療福祉連携室

電話: 0195(23)2191

FAX: 0195(23)6638

電子メール: suguru.yuzawa@gmail.com

地域一体の医療介護を目指して

カシオペア地域医療福祉連携研究会は平成22年4月に発足し、「顔の見える医療介護連携」を目指して活動しています。

各種研修会を開催し、地域の医療福祉従事者の知識や課題共有の場を提供しているほか、地域連携パスの運用や情報共有シートの運用など地域連携に関わるツールづくりにも取り組んでいます。

カシオペア地域の医療福祉従事者であればなたでも参加できます。詳しく知りたい方は事務局までお問い合わせください。

SNSもご活用ください

<http://www.ninohe-hp.net/cassiopeia/>
Facebookのグループもあります。

編集後記

長く暑い夏がようやく終わりました。節電の夏でありながら、エアコンをつけてしまったり…。二戸に住むようになって、はや4年になります。北だからといって涼しいというわけではないことを身をもって感じている今日この頃です。

ただ、暑いのは気温だけでなく医療介護にかかわる方々は熱い！研究会を始めることができたのも、熱い人たちがたくさんいる地域だからこそ、と感じている日々です。

しかし、「カシオペア地域医療福祉連携研究会の活動ってなにしてるの？」という声もまだまだ聞かれます。今後も多くの職種や地域の方々に活動内容を理解してもらうため、今回、第一号の「カシオペア連携プレス」というニュースレターを発刊しました。



記事の多くは活動の内容報告などになっていますが、次号からは参加機関の紹介や地域の情報などを掲載していければと考えています。ご期待ください。(湯澤)